

普及所から⑦③

水稻のばか苗病の防止について

俗にピランボーと呼ばれる水稻のばか苗病は、近年全国的に多発傾向にあります。ばか苗病というのは、箱育苗などの場合に茎葉がヒョロヒョロと

長く伸び、普通の苗よりも色が薄いのが特徴で、これはばか苗菌がつくり出すジベレリンという化学物質の作用によります。この病気は水稻の品種によつて出やすいものと、そうでないものがあります。特に新潟早生は出やすく、コシヒカリは出にくいようです。

ばか苗病にかかると大半は苗のうちに枯死しますが、一部が出穂期ごろに枯れ、枯れたワラの上につったりと粉のような白い胞子をつくり、これが飛散して開花前後の稈に侵入または付着して伝染します。したがって、ばか苗病に感染した種穂をなるべく使用しないようにすることが、ばか苗の発生を防ぐために重要になってきます。自家採種する場合は、本田でばか苗病の発生していない圃場で採種し、なるべく付近にもばか苗病

がないことが望ましく、また種子消毒をする前に塩水選（うるち比重一・〇六）をし、充実の悪い穂を取り除くことも感染量を少なくする有効な手段の一つです。

現在、種子消毒の方法として、一般的にベンレートT水和剤の二百倍の四十八時間浸漬処理が行われています。この消毒方法の場合に注意する点についていくつかふれてみると、まず早生栽培の場合はどうしても消毒液の温度が低くなりがちなので、摂氏一〇度以上に保つように工夫してください。次にベンレートTを溶かすときは、必ず少量の水に練るようによく溶かしてから二百倍液に薄めてください。そうすることによって、薬剤がなかなか沈殿しなくなります。またベンレートTの稈への付着をよくするために、消毒後四、五時

間陰干しをすれば一層効果が高くなります。他の種子消毒の方法として、湿粉衣や他の薬剤（ホルマリンやトリフミン）を用いることができます。

昨年、ベノミル耐性菌といつて、ベンレートTが効かないばか苗病の一部見つかりました。新潟早生や西南もち50号のようなばか苗病

すまん、すまん



の出やすい品種では、薬剤をトリフミンなどに替える必要があると思われまふ。以上のように防止対策を行つても一度にすべてをなくすことは不可能であり、地域全体で徐々にばか苗病の密度を下げるのが重要です。

〔南国農業改良普及所〕

南国歌壇

冬と春綱引きしつづつ寒暖の
春呼ぶ雪に梅はこころびぬ

篠原 山本茂

われに並び嫩持つ幼なが塙土を
もみじのごとき掌に毀しおり

岡豊町笠の川 葛目治子

雨やみて陽に輝よえる万りようの
実は愛らしく春はひそやか

植野 中司愛子

目ざめれば彼は今頃何をする
遙かに思ふ親心かな

立田 国繁和子

残雪の樹林くぐりて吐く息の
彼方に若き海の緑みえ

領石 唐岩男

南国柳壇

小石をば宝の様にひ孫遊ぶ
西山 竹村寿賀

参拝寺登りし石壇願かける
十市 土居千代子

友の計を聞く朝寂し春の雨
十市 沢村鶴一

なんだいの智慧を吐出す二月かな
十市 大家寿万子

南国俳壇

昏睡の母のむこうの実南天
冬々焼切り絵の家並み灯がとまり

冬の天死後が知りたい性折感
限や戦争ごつこのみんな死に

管通る父の尿にも春兆す
観音の開こうと春の寺

阻むもの無くて一氣に蛙火燃ゆ
木蓮の豊けき花芽勢ひけり

畦焼きて入日の棚田広きかな

岡田寿子 花おうち俳句会
福井博子 ()
岡田昌子 ()

浜田 妙 (南国市民句会)
中村竹子 ()
藤本清子 ()

島田清子 (おがたま会)
澤村 節 ()
山岡多恵子 ()